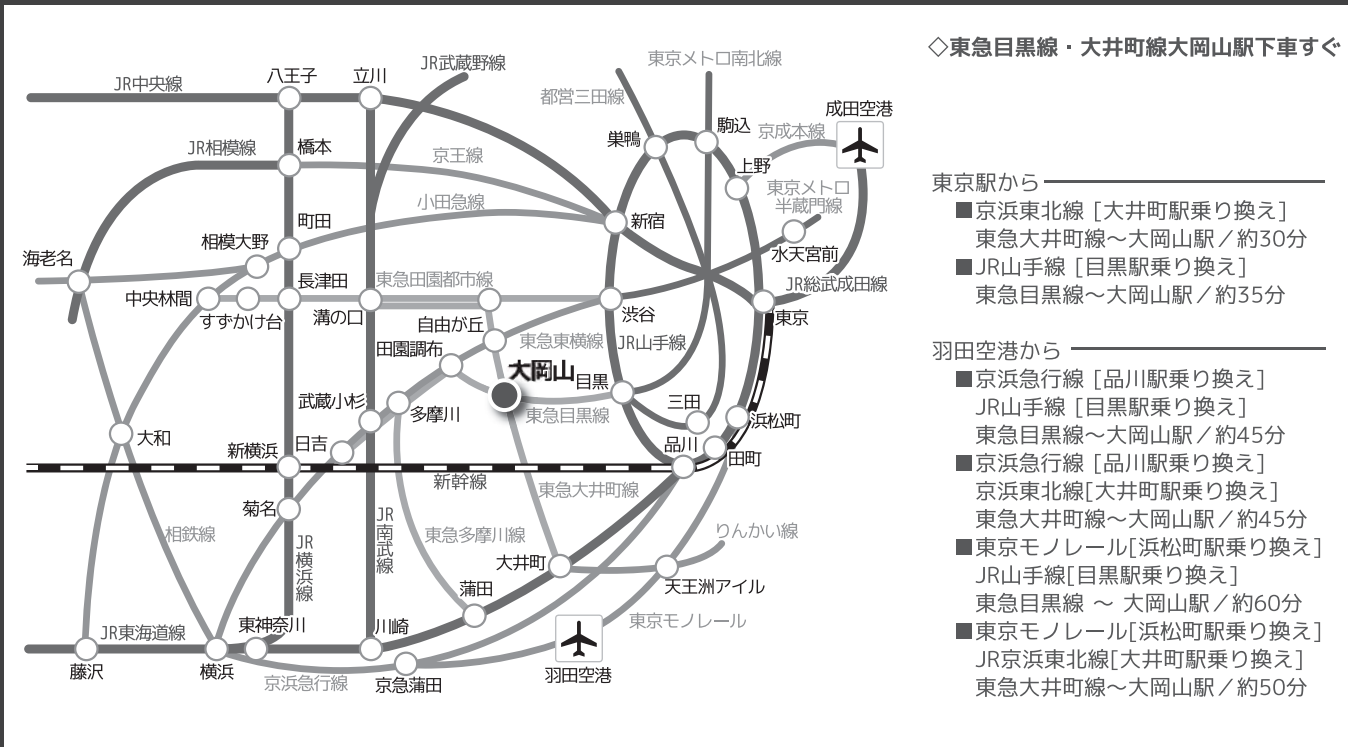


## 会場案内

### ACCESS



### キャンパス案内



■主催：公益社団法人  
土木学会 景観・デザイン委員会

■期 日：2013年12月13日(金)  
13時30分～17時30分

■場 所：東京工業大学  
大岡山キャンパス  
西9号館2階  
デジタル多目的ホール

〒152-8552  
東京都目黒区大岡山 2-12-1

■参加費：無料

ホームページ  
[http://www.jsce.or.jp/committee/  
lsd/conference/index.html](http://www.jsce.or.jp/committee/lsd/conference/index.html)

# スーパーエンジニアリングによる 土木のものづくり

## —美しい国づくりに向かう土木デザインの力とは—

景観デザインという言葉が社会で頻りに用いられるようになってから約20年余りの時が経過した。景観デザインというデザインフィールドは、単体の土木構造物のデザインから、地域のまちづくりまで範囲が拡張しているが、土木社会の中で、設計業務として定着しておらず、設計の一部として取り扱われている。

ここでは、景観デザインが本当に土木のデザインとして行われているのかという疑問を持ち、土木のデザインを見つめなおす機会とした。如何なる環境下でも、黙々と技術開発や技術進展を図ってきた技術をスーパーエンジニアリングと呼び、これらに立ち向かう個人の決断力や交渉力、組織のマネジメント力といったスーパーエンジニアリングを支える体制も含め、土木デザインのあり方を見直すことを目的とした。インフラの成熟期を向かえている我が国では、美しく暮らしやすい国土づくりを進め、日本の風景を守り育てていくことが重要となっている。本シンポジウムでは、「スーパーエンジニアリングによる土木のものづくり」という視点から、美しい国土づくりに向けての土木デザインのあり方を議論し、個人に何が必要なのか感じ取る機会としたい。

■日時：12月13日(金)13:30-17:30

参加費無料

■会場：東京工業大学 大岡山キャンパス

### プログラム

■開 場 13:00  
■開 会 13:30  
■特別講演 13:40 - 15:40

「新しい橋のカタチができるまで」 片 健一氏(三井住友建設株式会社)  
「海外のプロジェクトからみるエンジニアリング」  
加藤 秀一郎氏(鹿島建設株式会社)  
「予測困難な地すべりと闘う土工技術」 上野 将司氏(応用地質株式会社)  
「法面緑化から見た土工工事-生物多様性保全と景観」  
山田 守氏(SPTEC・YAMADA)

《休 憩》  
■パネル 15:55-17:25  
ディスカッション 「美しい国づくりに向かう土木デザインの力とは」

■閉 会 17:30

司 会：関文夫(日本大学)  
登壇者：上記登壇者



**片 健一 修士(工学)**  
Kenichi Kata

特別講演  
パネルディスカッション登壇者

- 1998\_3 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学修了
- 1998\_4 住友建設(株) 入社 土木本部PC設計部に配属  
主に高速道路のPC橋の設計業務に従事
- 2001\_5 同社静岡支店に配属  
新工法によるアーチ橋の施工管理業務に従事
- 2003\_4 合併により三井住友建設(株) 入社 土木本部PC設計部に配属  
主にPC橋の設計業務と合理化施工の技術開発に従事
- 2008\_10 同社四国支店に配属  
鋼・コンクリート混合斜張橋の施工管理業務に従事
- 2010\_11 同社土木本部土木設計部に配属  
新構造の橋梁の開発と設計に従事  
現在、同社土木本部土木設計部 課長

**主な作品(主な参加プロジェクト/竣工年)**

立山大橋 / 1999年, 古川高架橋 / 2002年(土木学会田中賞作品賞), 須津深谷橋 / 2002年, 高橋川橋 / 2003年, 母間幸福橋 / 2004年, 桂島高架橋 / 2005年(土木学会田中賞作品賞), 萱尾川橋 / 2007年, 長谷橋 / 2008年, 若柳橋 / 2010年, 生名橋 / 2011年(土木学会田中賞作品賞), 田久保川橋 / 2013年など  
「超高強度繊維補強コンクリートを用いた新しいウエブ構造を有する箱桁橋に関する研究」2012 土木学会田中賞論文部門受賞  
EASEC(East Asia-Pacific Conference on Structural Engineering and Construction) Nishino Prize 受賞(2013)

特別講演  
パネルディスカッション登壇者

**山田 守 博士(学術)**  
Mamoru YAMADA Ph.D



- 1984\_3 東京農業大学 農学部林学科卒業
- 1984\_4 日特建設(株)入社  
日特建設技術本部緑化工試験所に配属  
法面緑化を担当。支店の現場経験を含め22年間所属
- 2006\_11 個人事業 SPTEC・YAMADA(Seeding and Planting Techniques)を起業  
法面緑化の調査, 設計, 施工指導, 植生モニタリングなど
- 2007\_9 広島大学大学院博士課程後期修了 博士(学術)  
現在に至る

**主な作品(主に係った工事を列挙する)**

- ・ダム: 津軽ダム, 胆沢ダム, 長井ダム, ハッ場ダム, 湯西川ダム, 味噌川ダム, 小里川ダム, 大滝ダム, 温井ダム, 嘉瀬川ダムなど (その他, 電力ダム, 県ダム多数)
- ・高速道路: 小樽道, 秋田道, 常磐道, 上信越道, 長野道, 第二東名, 山陽道, 松江道, 浜田道, 鳴門道, 西九州道, 東九州道など
- ・飛行場: 福島空港, 広島空港, 新種子島空港
- ・その他 国道, 県道の道路改良やバイパス工事, 地滑り・崩壊斜面復旧など多数



**加藤 秀一郎 修士**  
Shuichiro KATO

特別講演  
パネルディスカッション登壇者

- 1997\_3 名古屋大学工学部土木工学科卒
- 1999\_4 鹿島建設(株)入社  
主に海外現場の入札対応, 現場施工を経験  
(ルーマニア, ベトナム, UAE, インドネシア, アルジェリア)  
経験工種(中小橋梁, 地下駅舎, 高架橋, 水力発電所),  
経験発注者(ベトナム政府, ドバイ市, VALE・INCO社)  
共に多様
- 2011\_ 土木学会賞田中賞  
ドバイメトロ高架橋 受賞現場担当。
- 2011\_9 香港大学專業進修学院 仲裁・調停コース
- 2013\_4 鹿島建設海外土木支店土木部見積グループ  
現在に至る

**主な作品(主な参加プロジェクト/竣工年)**

太郎山トンネル / 2002年, ベトナムメコンデルタ地域橋梁 / 2004年, ドバイメトロ / 2011年, インドネシアカレベダム / 2011年など



**上野 将司 博士(工学)**  
Shoji UENO Dr.Eng.

特別講演  
パネルディスカッション登壇者

- 1969\_3 北海道大学理学部地質学鉱物学科卒
- 1969\_4 応用地質株式会社入社 大阪, 福岡, 岡山, 高松勤務  
主として斜面防災業務に従事
- 1995\_4 技術本部斜面防災部長
- 1997\_4 技術本部道路部長
- 2000\_4 理事技師長
- 2010\_4 理事退任, エンジニアリング本部 技師長  
現在に至る

**現在の主な兼任**

- 2008\_4 ~ 岐阜大学工学部 非常勤講師
- 2008\_4 ~ 山梨大学工学部 非常勤講師
- 2009\_4 ~ 日本測量協会 認定講師

**主な著書**

危ない地形・地質の見極め方(日経BP社), 切土のり面の設計・施工のポイント(理工図書), 生態学的な斜面・のり面工法(山海堂), 山地の地形工学(古今書院), 空の旅の自然学(古今書院), 日本の地形・地質(鹿島出版会), 知っておきたい斜面の話(土木学会), 斜面地質学(日本応用地質学会)ほか

パネルディスカッション司会者

**関 文夫 博士(工学)**  
Fumio SEKI Dr.Eng.



- 1985\_3 日本大学理工学部土木工学科卒
- 1985\_4 大成建設(株)入社  
橋梁を中心に設計部と作業所を往来した後に, 土木デザインを独学。  
土木設計部で, 河川, 道路, 公園, 駅前広場, スポーツ施設など  
構造と環境を融合させるデザインを展開し, 国内外に実績多数
- 2002\_ グッドデザイン賞金賞他, 受賞多数
- 2011\_4 日本大学理工学部土木工学科 教授
- 2012\_4 大阪大学大学院非常勤講師  
現在に至る

**主な作品(主な参加プロジェクト/竣工年)**

東名足柄橋 / 1992年, 雷電廿六木橋 / 1998年, 京都国際会館駅前広場 / 2000年, 四国横断自動車道鳴門西パーキングエリア周辺プロジェクト / 2002年, 酒田みらい橋 / 2002年, 富士スピードウェイ / 2004年, 第二東名富士川橋 / 2005年, 甲南トンネル / 2005年, Dubai Palm Jumeira Project / 2007年, 明治大学野球部球場 / 2008年, 神奈川大学グラウンド整備 / 2008年, セガサミー野球施設 / 2009年, JR高槻駅北東地区土地区画整理事業 / 2012年など